

見直され始めた山の恵み「炭」

木をそのまま燃やすのではなく、炭にして燃やす…やわらかい温もりで、心まで暖めてくれたり…遠赤外線が食べ物を芯から焼き上げおいしくしてくれる…かつては暖房と調理の主役として大いに利用されました。

その後、ガスや電気の普及でほとんど利用されなくなりましたが、最近ではアウトドアや健康ブームもあって炭が見直され始めています。炭で調理するための七輪が品不足になるほど売れているといいます。また、炭や炭焼きの際に出る木酢液(樹木エキスの「浄化・消臭・殺菌作用」が注目を集め、入浴剤などの美容健康グッズに使われています。美容、アトピー、冷え性に効果があるとされています。

湖北でも明治以降の二期、炭焼きが大きな産業となっていた時代がありました。元々余呉町は江戸時代から木炭の主産地で、彦根藩の御用炭に使われていました。炭の生産が特に増えたのは、明治十七年に長浜、敦賀間の北陸線が開通してからです。それまで北国街道の宿場町(中河内・椿坂・柳ヶ瀬)として栄えていましたが立ち行かなくなり、それに代わる生計の糧として炭焼きが盛んになったのです。

湖北では冬の炭焼きはお休み。雪がとても多いからです。雪解けの四月初ころから作業が始まります。余呉生まれで現在も余呉在住の山根友道さんと久保吉郎さんに炭焼きについて伺いました。

「木のあるところを回りながら炭を焼き、三五年くらいで山を二回りしました。秋までに二〇回ほど炭を焼



久保吉郎(左) 昭和6年生まれ
山根友道(右) 大正15年生まれ
お二人とも長年にわたって農業、炭焼等に携わる。余呉町在住。
田中弘子 昭和10年名古屋生まれ 現在、自然観察会や学校にて、草木染めや山菜の講師として活躍中。

暮らしを暖め装いを彩る “山の恵み”のもう一つの顔

樹木、草花、水、動物、鉱物……山からもたらされる「恵み」は無限です。主役は何といっても山の木々。私たちの住まいや道具の主材料として生活を支える大切な役割を果たしています。同時に、そんな木々には「暮らしの味わいと心のやすらぎを深める」という「もう一つの顔」があります。かつて湖北で炭焼きを営んでいた余呉町の山根友道さんと久保吉郎さん、そしてウッディバル余呉の自然体験教室で草木染めを教えている田中弘子さんに、木々の持つ「もう一つの顔」についてお話を伺いました。



炭焼き、草木染め



炭焼き小屋 (昭和33~34年頃)

炭は梱包され近江八幡などに出荷された。(昭和33~34年頃)

きましたね。窯は木を集めやすい谷底などに作りました。

原料はナラ、コナラ、ケヤキ、カシ、サルスベリなどの木。湖北の山々はこうした木々の宝庫です。まず、周囲の土で作った釜の内側に木を並べ(木立)、上から土をかけて窯を



⑤土を叩き締め、天井をつくる(窯打ち) ④天井に型木を乗せ、切子を並べる ③炭材を投入する(木立) ②粘土で窯壁を築くと同時に、排煙口と煙道を作る ①窯場を決め、窯底を掘る

炭窯づくり



つくります(窯打ち)。火をつけた後は煙の色の変化を見ながら火を落とす(窯込め)時期を探ります。この間は「親の死に目にも会えない」ほどの付き切り状態。煙の色が白、黄、青と変わり、煙が見えなくなると火を落とし四日間ほど寝かせて取り出します(炭出し)。炭出しは家族総動員の作業でした。

「二回の炭焼きで五〇〜一〇〇俵(俵二五キログラム)の炭ができました。炭焼きの間は木々で作った「またぶり小屋」(枝で柱や梁を組んで作る「デント小屋」)に泊まることもありましたが、ガスの普及など生活様式の変化で、東京オリンピック(昭和三九年)を境に炭焼きでは食えなくなりましたね。残念ながら今では炭焼きをしている人はいません」

草木染めで山の恵みを「楽しむ」

山の木々は炭となる一方で、染め物の原料にもなり、私たちの衣服や持ち物の味わいを深めてくれます。湖北では暮らしの習慣として、もう一つの山の恵み「草木染め」は盛んではありませんでしたが、最近になって注目され始め、ウッディバルの自然体験教室「草木染めをしよう」には多くの参加者が集まります。教えているのは、かつて名古屋から嫁いできて湖北の自然に魅せられたという田中弘子さん。

「地元の人にはかえってピンとこないかもしれませんが、余呉には山の恵みがあふれているんですよ。私はそれを草木染めの形で暮らしに取り入れることを提案しています。いずれ地域の名産品にできれば素敵ですね」

この教室ではスギ、ヒノキ、カシワ、アカメガシワ、クリなどの木のほか、マリーゴールドの花やヨモギなどの草でも染めています。

「例えばクリの場合、イガ、葉、枝…すべてが使えるんですよ。三〇〜四〇分まで煮出して液を作り、これに木綿や絹の白生地を入れて三分ほど煮ます。煤染液(ぼくせんりやく)に二〇分ほど漬けて色を定着させれば、やさしく淡い色の独特の風合いに染め上がります。草木染めのだいたい味は、自分で材料を集めて自分だけの染め物を創り出す楽しさにあります」

ウッディバル余呉

「大自然は心の日曜日」がキャッチフレーズの保養施設「ウッディバル余呉」では、コテージやキャンプ場など宿泊施設やテニス、パターゴルフ、バトラスレチック、スキーなどのレジャー施設を整備、また森林文化交流センターでは自然に学び、自然と遊ぶと「体験教室」や「自然教室」などさまざまなイベントを開いています。山の恵み、緑の恩恵に触れ、実感するには最適な施設です。

イベント情報	
体験教室	自然教室
8月 夏休み自然塾 6日(月)~8日(水) 水生生物・昆虫・地質岩石・絵画の4コース	
9月 魚つかみに挑戦しよう 23日(日)	秋の夜空を眺めてみよう 8日(土)
10月 夜叉ヶ池の伝説を訪ねて 27日(土)	草木染めをしよう 14日(日)
11月 焚き火をしてみませんか 24日(日)	秋の恵みを食べてみよう 11日(日)
12月 お正月だ餅つきだ 23日(日)	つるかごを作ろう 9日(日)



7月28日(土) 丹生ダムふれあいフェスタ2001